第39回

ニチバンがメディカル品の物流を再構築
医薬品プラットフォームで全国一元管理

ニチバンは物流体制を抜本的に見直す。メディカル事業の物流をテープ事業と完全に分離して、全国の倉庫保管と配送を大塚倉庫に一括して委託する。在庫の一元管理によってBCPを強化すると共に、医薬品物流のサービス品質をメディカル製品全般に適用する。（進行役：本誌編集部）

ヘルスケア製品が急成長

――ニチバンは「セロテープ」で知られていますが、近年はヘルスケアや医療材などのメディカル事業が伸びています。

ニチバン　堀田直人　代表取締役社長「もともと当社は『歌橋製薬所』という商号で軟膏や絆創膏などの製造業者として出発しました。創業は１９１８年ですから、今年ちょうど１００周年を迎えます。戦時中の１９４４年に政府の要請で当時25社あった絆創膏メーカーを統合して『日絆工業』という会社ができました。終戦後、『日絆薬品工業』と商号を改めたのですが、ＧＨＱからセロハンテープの製造を依頼されたのがきっかけで、１９４８年に『セロテープ』を発売しました。その後テープ事業の拡大に伴い、１９６１年に社名を現在のニチバンに改称しました」

「私は１９７２年の入社なのですが、そのころにはもうテープ事業が売り上げの７割近くを占めていました。創業１００周年に向けた経営計画【ＮＢ１００】を策定した２０１１年ごろも売上比率はほとんど同じでした。それがこの2～3年で大きく変わりました。メディカル事業の需要が急増して、売上構成比率が45％近くまで上がっています。【ＮＢ１００】で２０１８年度の目標に掲げた40％を1年前倒しで達成した格好です」

――急成長は何が理由ですか。

ニチバン・堀田「当社のメディカル事業は、救急絆創膏の『ケアリーヴ』など、ドラッグストア向けのヘルスケア製品と、医療用テープやドレッシング材などの医療施設向けの２つに分けられます。そのうち現在の成長を牽引しているのはヘルスケア製品です。これまでいろいろとまいてきた種がようやく花開いてきたということなのですが、インバウンド消費の恩恵にもあずかっています。肩こり・腰痛用の鎮痛消炎剤『ロイヒつぼ膏』が訪日観光客に爆発的に売れています」

――従来の物流体制と管理上の課題は？

ニチバン・堀田「かつては全国に分散していた在庫を、効率化のため東西２拠点に集約しました。その結果として九州、北海道のリードタイムが長くなっていました。テープ品とメディカル品を同じ拠点で取り扱うことに難しさもありました。テープ品の納品先は文具卸や工業製品卸で、価格競争の厳しい製品ですから何よりコストを重視する必要があります。一方のメディカル品は薬機法（旧薬事法）の規制強化をはじめリードタイムと物流品質の両面で年々要求が厳しくなっています。また東西の拠点を別々の物流会社に委託していたことから、ＢＣＰ対応にも不安がありました」

――大塚倉庫の提案内容は？

大塚倉庫　濵長一彦　代表取締役社長「最初に訪問する前に推測したのは、売り上げではテープとメディカルが６対４でも、物量は圧倒的にテープが多いためテープ中心の管理になってしまい、より品質が求められるメディカルの物流に影響を及ぼしているのではないかということです。その場合、当社の医薬品の物

流プラットフォームを利用してもらうとメリットは大きい。大塚グループは医薬品の在庫拠点を全国8カ所に展開しているので在庫分散によるBCP強化も提案できる。ただし、テープとメディカルの物流を分離することが前提になるため、まずは詳しく話を伺うところから始める必要がありました」

ニチバン・堀田「大塚倉庫さんからのアプローチは、当社にとってちょうど良いタイミングでした。というのも、メディカル事業の比率が上がり、物流品質の向上が喫緊の課題となっていたところだったのです」

「また、足元ではトラック不足に悩まされていました。全国の納品先への配送は主に路線便（特積み）を使っていたのですが、年末繁忙期には方面によっては集荷してもらえないケースも出てくるようになりました。一方、生産量はどんどん伸びていて、材料や製品在庫を保管する場所も一杯です。そうやって困っているところを、大塚倉庫さんに緊急避難的に助けてもらう形でまずは取引が始まりました」

ニチバン　堀田直人　代表取締役社長（左）
大塚倉庫　濵長一彦　代表取締役社長（右）

地域別からカテゴリー別に再編

――最終的にはどのようなスキームに？

ニチバン・堀田「メディカル事業とテープ事業の物流を完全に分離して、メディカル事業については大塚倉庫さんに全国を一括して委託する方針を固めました。在庫拠点は関東と関西、そして九州の3カ所に分散してリードタイムを短縮し、BCPも強化します」

大塚倉庫・濵長「これまで東西のエリア別だった物流体制を事業別、製品カテゴリー別に刷新するというのは大きなご決断だったと思います。しかし、それによってメディカル事業の物流サービス品質は大きく向上します。メディカル事業の製品のうち薬機法の制約を受けるのは『ロイヒつぼ膏』、『ケアリーヴ』など全体の7割ほどで、残りは『雑品』ですが、われわれは全ての製品に医薬品物流の基準を適用します。物流品質はもちろん、医薬品以外であっても絆創膏などは温度管理が必要ですので製品の品質にも貢献できます」

ニチバン・堀田「医薬品・医療機器と雑品は、薬機法の区分としては分かれていますが、ロット管理や温度管理が大事なのは同じです。最終的にはどちらもドラッグストアの店頭に並ぶわけですし別扱いはできません。しかもドラッグチェーンのバイイングパワーは強大です。棚割りのわずかな変化がわれわれの業績に大きく影響します。ドラッグチェーンが求める物流サービスに応えることは営業戦略上も重要です」

――今後の具体的なスケジュールは？

大塚倉庫・濵長「今年5月をめどに、まずは九州の拠点を立ち上げ、関東と関西も2019年度中には共通プラットフォームへの移管を済ませる予定です」

ニチバン・堀田「われわれとしては品質向上に加えて、大塚倉庫さんの『ID運輸』や『ID倉庫』など、ITや人工知能を使った先進的な取り組みにも魅力を感じています。実際に現場も見学させていただきましたが大変インパクトがあり、これなら大丈夫だと思えました」

大塚倉庫・濵長「医薬品物流は安定供給と品質担保が第一であり、われわれがITに投資する目的は物流を止めないことです。そのために物流を見える化し、その情報をお客様にも提供している。そうした情報インフラを構築することで、万が一トラブルが起きてもすぐに対応できる。それによって被害を出さない、被害を最小限に留めることができます。どうぞ期待してください」

運

ニチバン株式会社

「セロテープ」や救急絆創膏「ケアリーヴ」、産業用などさまざまなテープ材を製造している。近年メディカル事業の売上が急増している。

大塚倉庫株式会社

大塚グループの物流子会社。食品、日用品、医薬品を対象にメーカー物流を業界ごとに共同化する共通プラットフォーム戦略で急成長を遂げている。

※「セロテープ」、「ケアリーヴ」、「ロイヒつぼ膏」は登録商標です。

大塚倉庫ホームページ　http://www.otsukawh.co.jp/

Otsuka 大塚倉庫株式会社

大塚倉庫株式会社　〒104-0053　東京都中央区晴海4丁目7番4号
問い合わせ先　営業本部　営業2部　TEL (03) 3534-2671　FAX (03) 3534-2673